

推進方策

(環境教育の推進手法の充実) について

今後の取組みの方向性（案）

◆環境学習ツール（冊子、動画等）

- 発達段階や社会情勢を踏まえて、活用する側のニーズに応じた、対象者の学びや実践に有効なものを作成。
 - ・教科横断的な学びを考慮した教材。
 - ・幼児期から小学校低学年、大学・専門学校等における教材。
- 現代的なツール（VR、SNS等）をはじめとした若年世代が手に取るような新たなスタイルで多様な体験の場を提供。

【今後の取組案】

- ・動画コンテンツの作成。
- ・大阪湾について総合的に学習できる教材パッケージの作成。
- ・府民参加型で府内の河川環境について考えるデジタル版リーフレットの作成。
- ・VRによる環境教育教材の作成。
- ・主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点を踏まえた教材開発。

今後の取組みの方向性（案）

◆人材育成・活用

- ボランティア活動や環境とは異なる分野との連携など、環境活動へつなげる幅広い参画機会を創出するとともに、適切なマッチングにより継続的に活動の場を提供。

【今後の取組案】

- ・ 大学等で環境活動を行うサークルや地域の民間団体との交流機会の創出。
- ・ 関西広域連合と連携した環境学習の推進。

◆支援制度

- 地域で活動する団体等を積極的に掘り起こし、より多くの多様な主体間のネットワークやパートナーシップを構築。
- 民間団体や事業者等の環境保全活動等の活性化につながる多面的な支援を実施。

【今後の取組案】

- ・ 多様な主体が参画する会議・協議会の運営によるネットワーク構築の促進。
- ・ マイボトルパートナーズ等の共通テーマを通じた様々な企業との連携・協働の促進によるパートナーシップ構築の促進。
- ・ 大阪府環境保全活動補助金及びおおさか環境賞による支援。
- ・ 脱炭素経営宣言登録制度等による企業等の取組促進。
- ・ 2025年大阪・関西万博の機会を活かした脱炭素に向けた技術開発・実証に対する支援。

今後の取組みの方向性（案）

◆情報提供

- 府は、環境教育に関する客観的で正確な最新情報を提供。
- 適切で的確なツールと多様なチャンネルの活用による発信力・伝達力を強化。

【今後の取組案】

- ・発信力のある企業と連携した情報発信力の強化。
- ・業種を超えた幅広い関係者が参画するプラットフォームを活用した幅広い情報発信。

◆普及啓発

- 行動科学の知見やICT技術など、費用対効果の高い多様な手法を導入。
- 環境とは異なる分野とのコラボレーションで実施されるイベント等での普及啓発。

【今後の取組案】

- ・ゼロカーボン・ダイアログ等、環境以外の分野と連携したイベントの実施。
- ・大阪府と大阪大学社会経済研究所との連携協定による府施策へのナッジの活用。
- ・脱炭素や食品ロス削減につながる消費行動の促進。

（脱炭素ポイント制度の創設、大阪府版CFP算定手法の活用、食品ロス削減に向けた事業者と府民の協働の場の創出など）